

## 3. PIO-NETの危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報

### 1 危害・危険情報と医療機関ネットワーク

全国消費生活情報ネットワーク・システム（PIO-NET：パイオネット）では、全国の消費生活センターに寄せられる商品や役務、設備等により生命や身体に危害を受けた事例（危害情報という。以下「危害」）、および、「危害」には至っていないがそのおそれがある事例（危険情報という。以下「危険」）を収集している。また、医療機関ネットワーク事業<sup>(注1)</sup>（以下「医療機関ネットワーク」）では、消費生活上において生命または身体に被害を生じる事故に遭い医療機関を利用した患者から情報を収集し、それらの情報を活用することにより、注意喚起や安全対策などへの取り組みに活かすこととしている。

本章では、2011年度にPIO-NETにより収集した危害・危険情報<sup>(注2)</sup>と、医療機関ネットワークの参画医療機関（13病院）から収集した危害情報をまとめた。

(注1) 医療機関ネットワークとは、消費生活上において生命または身体に被害を生じる事故に遭い医療機関を利用した患者から情報を収集し、注意喚起などに活用することを目的としている事業。消費者庁との共同事業であり2010年12月より情報収集を開始した。事業の詳細は以下の消費者庁のホームページを参照。

[http://www.caa.go.jp/safety/pdf/101111kouhyou\\_2.pdf](http://www.caa.go.jp/safety/pdf/101111kouhyou_2.pdf)

(注2) データは、2012年5月末日までの登録分。なお、2007年度から、国民生活センターで受け付けた「経由相談」を除いている。

#### 主な特徴

- 2011年度に消費生活センターから収集した危害・危険情報は15,195件で、対前年度比でみると19.6%増であった。これは自主回収している小麦加水分解物含有石けんに関する危害の相談が急増したことが大きい。医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から収集した情報は5,480件であった。
- 2011年度は消費生活センターから収集した「危害情報」は11,493件、「危険情報」は3,702件であった。「危害情報」の上位3商品は、「化粧品」「医療サービス」「エステティックサービス」であった。「危険情報」の上位3商品は、「四輪自動車」「化粧品」「電子レンジ類」であった。
- 「危害情報」は前年度より件数が増加し、「危険情報」は減少した。「危害情報」で増加件数が多い商品・役務は「化粧品」「健康食品」「外食」であった。「危険情報」で増加件数が多い商品・役務は「化粧品」で、これは「危害情報」と同様に小麦加水分解物含有石けんに関する相談が急増したことによるものである。
- 医療機関ネットワークからは、5,480件の危害情報を収集した。事故原因となったもので上位3商品は、「家具類」「階段」「自転車」であった。

## 2 消費生活センターに寄せられた危害情報の概要

2011年度に消費生活センターから収集した危害情報は11,493件で、前年度の8,595件と比べると2,898件（前年度比133.7%）の増加で、これは自主回収している小麦加水分解物含有石けんに関する危害の相談が急増したことによる。（表1、図）

表1 危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報の収集件数の推移

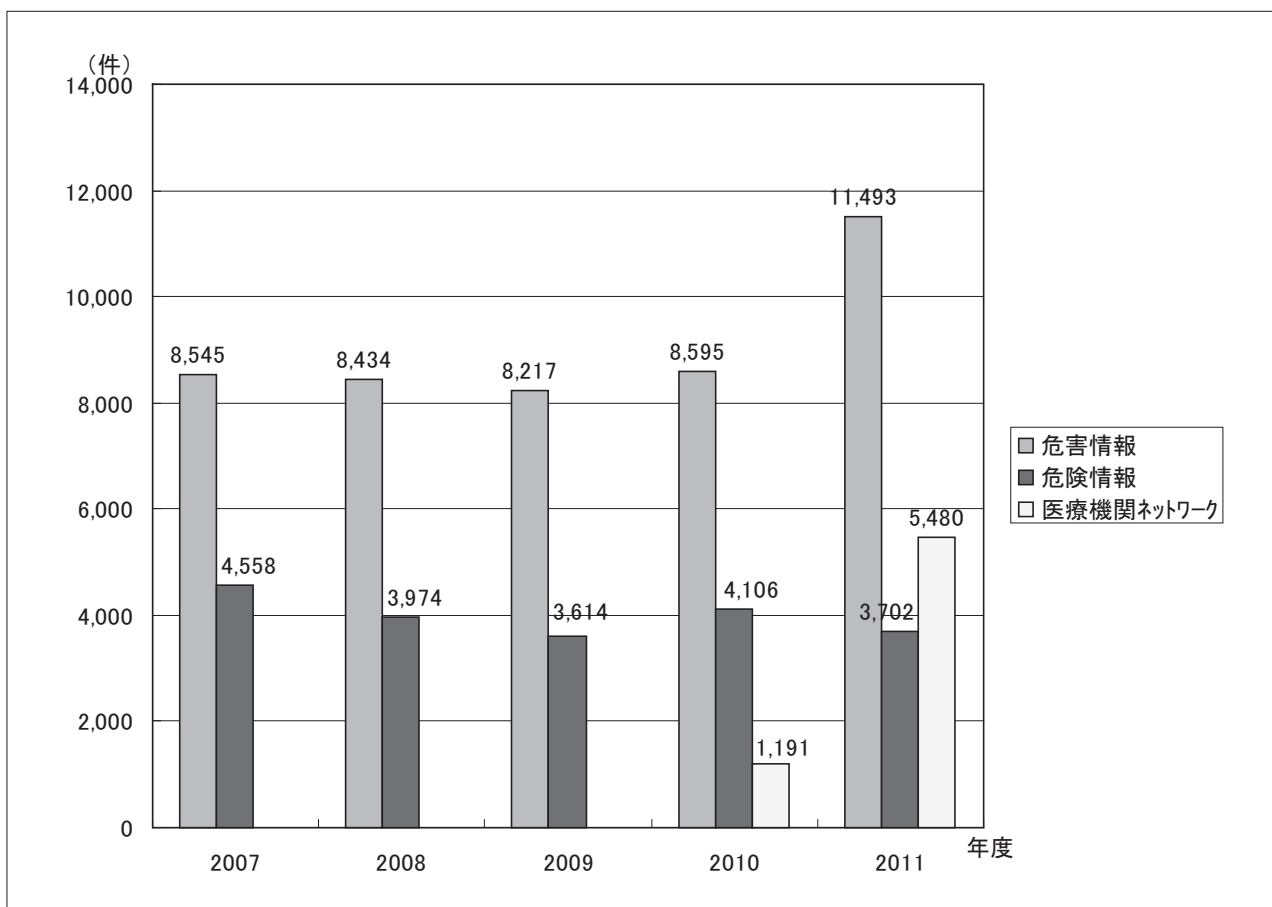
(件)

年度	消費生活センター				医療機関ネットワーク		計 A + B	対前年度比
	危害	危険	計 (A)	対前年度比	危害 (B)	対前年度比		
1975	292	345	637					
1976	528	708	1,236	194.0				
1977	907	834	1,741	140.9				
1978	1,009	1,223	2,232	128.2				
1979	979	1,200	2,179	97.6				
1980	929	1,318	2,247	103.1				
1981	948	1,850	2,798	124.5				
1982	1,292	1,516	2,808	100.4				
1983	1,115	1,331	2,446	87.1				
1984	1,413	1,294	2,707	110.7				
1985	1,640	1,119	2,759	101.9				
1986	1,567	1,279	2,846	103.2				
1987	1,603	1,111	2,714	95.4				
1988	1,640	1,074	2,714	100.0				
1989	1,650	1,165	2,815	103.7				
1990	1,734	1,196	2,930	104.1				
1991	1,650	1,089	2,739	93.5				
1992	1,834	1,110	2,944	107.5				
1993	2,206	1,725	3,931	133.5				
1994	2,449	2,534	4,983	126.8				
1995	3,934	3,324	7,258	145.7				
1996	4,978	4,009	8,987	123.8				
1997	5,035	2,688	7,723	85.9				
1998	4,889	1,967	6,856	88.8				
1999	5,106	1,936	7,042	102.7				
2000	6,199	3,109	9,308	132.2				
2001	5,670	2,578	8,248	88.6				
2002	7,612	2,588	10,200	123.7				
2003	6,543	2,132	8,675	85.0				
2004	5,848	2,434	8,282	95.5				
2005	6,511	2,819	9,330	112.7				
2006	7,054	3,597	10,651	114.2				
2007	8,545	4,558	13,103	123.0				
2008	8,434	3,974	12,408	94.7				
2009	8,217	3,614	11,831	95.3				
2010	8,595	4,106	12,701	107.4	1,191	-	13,892	-
2011	11,493	3,702	15,195	119.6	5,480	460.1	20,675	148.8
計	142,048	78,156	220,204		6,671		13,892	

(注1) 2012年5月末日までの登録分。消費生活センター (A) は2007年度から「経由相談」を除いている。

(注2) 2010年度の医療機関ネットワークの件数は2010年12月から2011年3月末までのものである。

図 危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報の収集件数の推移



(注1) 2012年5月末日までの登録分。消費生活センターは2007年度から「経由相談」を除いている。

(注2) 2010年度の医療機関ネットワークの件数は2010年12月から2011年3月末までのものである。

### (1) 商品等分類別件数、商品・役務別危害件数

#### ①商品等分類別件数

商品等分類別にみると、最も多かったのは前年度2位であった化粧品、マスクや湯たんぽなどの他の保健衛生用品、医薬品類等の「保健衛生品」の4,180件(36.4%)であった。化粧品が圧倒的に多いが、自主回収している小麦加水分解物含有石けんに関する相談が急増したためである。

第2位は医療サービス、エステティックサービス、歯科治療、美容院等の「保健・福祉サービス」の2,389件(20.8%)であった。次いで、健康食品、調理食品、飲料、菓子類等の「食料品」1,601件(13.9%)で、以下、家具類、ふとん類、洗濯用洗剤、調理器具等の「住居品」869件(7.6%)、外食、食事・食材宅配、ハウスクリーニング等の「他のサービス」530件(4.6%)となっている。

6位以下は、靴・運動靴、婦人洋服、婦人下着等の「被服品」355件(3.1%)、健康器具、タバコ用品、携帯電話等の「教養娯楽品」345件(3.0%)、宿泊施設、スポーツ施設利用、スポーツ・健康教室、遊園地・レジャーランド等の「教養・娯楽サービス」235件(2.0%)、自転車、四輪自動車、自動二輪車等の「車両・乗り物」223件(1.9%)、賃貸アパート・マンション、借家等の「レンタル・リース・貸借」209件(1.8%)などであった。(表2、表3)

表2 商品等分類別件数

○消費生活センター情報

商品等分類	危害情報		危険情報	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
食料品	1,601	13.9	321	8.7
住居品	869	7.6	1,288	34.8
光熱水品	27	0.2	94	2.5
被服品	355	3.1	47	1.3
保健衛生品	4,180	36.4	251	6.8
教養娯楽品	345	3.0	421	11.4
車両・乗り物	223	1.9	763	20.6
土地・建物・設備	142	1.2	169	4.6
クリーニング	7	0.1	1	0.0
レンタル・リース・貸借	209	1.8	82	2.2
工事・建築・加工	106	0.9	50	1.4
修理・補修	21	0.2	71	1.9
運輸・通信サービス	66	0.6	11	0.3
教養・娯楽サービス	235	2.0	9	0.2
保健・福祉サービス	2,389	20.8	32	0.9
他のサービス	530	4.6	76	2.1
その他	188	1.6	16	0.4
合計	11,493	100.0	3,702	100.0

○医療機関ネットワーク情報

商品等分類	件数	割合 (%)
食料品	277	5.1
住居品	1,937	35.3
光熱水品	42	0.8
被服品	88	1.6
保健衛生品	287	5.2
教養娯楽品	836	15.3
車両・乗り物	581	10.6
土地・建物・設備	1,335	24.4
他の商品	88	1.6
サービス	9	0.2
合計	5,480	100.0

(注) 2012年5月末日までの登録分。危害情報、危険情報は2007年度から「経由相談」を除いている。

表3 商品等分類別危害発生件数上位商品・役務(消費生活センター)

商品等分類	件数	主な商品・役務
食料品	1,601	健康食品(533)、調理食品(252)、飲料(199)、菓子類(145)、鮮魚(71)
住居品	869	家具類(218)、ふとん類(89)、洗濯用洗剤(33)、調理器具(24)、他の住居洗剤(23)
光熱水品	27	他の光熱水品(11)、電気(7)、石油(6)
被服品	355	靴・運動靴(93)、婦人洋服(43)、婦人下着(34)、アクセサリ(33)、他の身の回り品(32)
保健衛生品	4,180	化粧品(3,447)、他の保健衛生用品(121)、医薬品類(101)、家庭用電気治療器具(98)、メガネ・コンタクトレンズ(84)
教養娯楽品	345	健康器具(50)、タバコ用品(46)、携帯電話(27)、園芸用品(18)、ペット用品(18)
車両・乗り物	223	自転車(111)、四輪自動車(49)、自動二輪車(15)、自転車用品(11)、ベビーカー(11)
土地・建物・設備	142	建具(20)、戸建住宅(17)、電気温水器(15)、分譲マンション(9)、風呂釜・浴槽(7)、トイレ設備(7)
クリーニング	7	クリーニング(7)
レンタル・リース・貸借	209	賃貸アパート・マンション(166)、借家(18)、レンタルサービスその他(7)、介護用品レンタル(6)
工事・建築・加工	106	新築工事(34)、内装工事(24)、増改築工事(17)、塗装工事(13)
修理・補修	21	修理サービス(20)
運輸・通信サービス	66	鉄道サービス(17)、バスサービス(15)、移動通信サービス(14)、タクシーサービス(8)
教養・娯楽サービス	235	宿泊施設(51)、スポーツ施設利用(42)、スポーツ・健康教室(40)、遊園地・レジャーランド(23)、海外パッケージツアー(19)
保健・福祉サービス	2,389	医療サービス(728)、エステティックサービス(616)、歯科治療(296)、美容院(273)、はり・きゅう・マッサージ(81)
他のサービス	530	外食(438)、食事・食宅配(18)、ハウスクリーニング(11)、損害保険(9)、結婚式関連サービス(7)、パーキング(7)
その他	188	商品一般(176)、他の商品(12)
合計	11,493	

(注) 上位5位の商品・役務、ただし、5件未満は除く。2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。2009年度から商品・役務等分類の一部を変更している。

表4 商品等分類別危険発生件数上位商品・役務（消費生活センター）

商品等分類	件数	主な商品・役務
食料品	321	菓子類 (81)、調理食品 (63)、飲料 (37)、パン類 (27)、調味料 (13)
住居品	1,288	電子レンジ類 (89)、家具類 (79)、電気掃除機類 (64)、室内照明器具 (57)、消火器 (52)
光熱水品	94	石油 (41)、他の光熱水品 (39)、都市ガス (5)、電気 (5)
被服品	47	靴・運動靴 (12)、婦人洋服 (10)、子供洋服 (7)、ぞうり・サンダル類 (6)
保健衛生品	251	化粧品 (128)、ヘアケア用具 (37)、他の保健衛生用品 (28)、家庭用電気治療器具 (10)、ひげそり用具 (10)
教養娯楽品	421	テレビ (60)、タバコ用品 (53)、パソコン (42)、携帯電話 (40)、携帯型音響映像機器 (32)
車両・乗り物	763	四輪自動車 (490)、自動二輪車 (82)、自転車 (74)、他の自動車用品類 (24)、自動車部品 (17)
土地・建物・設備	169	温水ボイラー (22)、戸建住宅 (17)、トイレ設備 (15)、ソーラーシステム (14)、瞬間湯沸器 (12)、電気設備 (12)
クリーニング	1	
レンタル・リース・貸借	82	賃貸アパート・マンション (56)、借家 (10)、レンタカー (5)
工事・建築・加工	50	新築工事 (15)、他の工事・建築サービス (9)、増改築工事 (7)、電気工事 (6)
修理・補修	71	修理サービス (53)、車検サービス (18)
運輸・通信サービス	11	鉄道サービス (5)
教養・娯楽サービス	9	
保健・福祉サービス	32	医療サービス (27)
他のサービス	76	外食 (45)、他の行政サービス (6)、食事・食材宅配 (5)
その他	16	商品一般 (9)、他の商品 (7)
合計	3,702	

(注) 上位5位の商品・役務、ただし、5件未満は除く。2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。2009年度から商品・役務等分類の一部を変更している。

表5 商品等分類別危害発生件数上位商品・役務（医療機関ネットワーク）

商品等分類	件数	主な商品・役務
食料品	277	調理食品 (71)、飲料 (57)、めん類 (43)、菓子類 (41)、油脂 (22)
住居品	1,937	家具類 (1,096)、調理器具 (89)、他の家具・寝具類 (86)、家庭用手工工具 (82)、食器 (72)
光熱水品	42	他の光熱水品 (33)、石油 (8)
被服品	88	他の服飾材料 (27)、子守用被服品 (17)、他の身の回り品 (12)、ぞうり・サンダル類 (11)、靴・運動靴 (7)、アクセサリ (7)
保健衛生品	287	医薬品類 (76)、他の保健衛生用品 (65)、化粧品 (49)、歯みがき用品 (25)、他の医療機器 (17)
教養娯楽品	836	遊具 (286)、玩具・遊具その他 (104)、タバコ用品 (51)、園芸用品 (48)、他の文具・事務用具 (48)
車両・乗り物	581	自転車 (327)、四輪自動車 (113)、ベビーカー (53)、他の乗り物類 (29)、ショッピングカート (14)、自動二輪車 (14)
土地・建物・設備	1,335	階段 (486)、建具 (249)、屋外装備品その他 (159)、床 (73)、建物一般 (54)
他の商品	88	他の商品 (53)、コイン (29)、商品一般 (6)
サービス	9	遊園地・レジャーランド (5)
合計	5,480	

(注) 上位の商品・役務、ただし5件未満は除く。2012年5月末日までの登録分。

## ②商品・役務別危害件数

商品・役務別にみると、「化粧品」が3,447件 (30.0%) と圧倒的に多く、前年度より約2,800件の増加であった。ただし、その大部分は小麦加水分解物含有石けんに関する危害情報である。



次いで、「医療サービス」が728件（6.3%）で、美顔エステや脱毛エステ、痩身エステ等の「エステティックサービス」が616件（5.4%）の順であった。

4位は他の健康食品や健康食品全般等の「健康食品」で533件（4.6%）、5位は「外食」で438件（3.8%）であった。順位は1位と2位が入れ替わっていた。また、5位までいずれも前年度よりも件数が増えていた。

6位から10位までは「歯科治療」296件（2.6%）、パーマの「美容院」273件（2.4%）、弁当や他の調理食品等の「調理食品」252件（2.2%）、ベッドや椅子等の「家具類」218件（1.9%）、ミネラルウォーターや他の飲料等の「飲料」199件（1.7%）の順であった。（表9）

## (2) 危害の内容

危害の内容では、最も多かったのは前年度2位の「皮膚障害」が3,853件（33.5%）で前年度に比べ2,000件以上増加し、危害全体に占める割合では12.8ポイントの増加となっている。なお、大部分は「化粧品」の件数の急増によるものである。

次いで多かったのは、前年度1位の「その他の傷病及び諸症状」が3,011件（26.2%）であった。内容をみると、「化粧品」「医療サービス」「歯科治療」「健康食品」等によって体調がすぐれない、気分が悪い、痛みがあるなどの症状である。前年度に比べ114.8%と増加したものの、皮膚障害の件数の急増により危害全体に占める割合では4.3ポイントの減少となっている。

3位は前年度4位であった「健康食品」「外食」「調理食品」等による「消化器障害」918件（8.0%）で前年度より138件増加した。

4位は前年度3位であった「擦過傷・挫傷・打撲傷」の695件（6.0%）で「エステティックサービス」「自転車」等によるものであるが、前年度より100件以上減少した。

5位の「熱傷」690件（6.0%）は前年度と順位が同じであるが、件数は60件近く減少した。

6位の「刺傷・切傷」622件（5.4%）は順位は変わらなかったが件数は80件近く減少した。7位の「呼吸器障害」611件（5.3%）は前年度より415件増加しており、「化粧品」の件数の急増によるものである。8位の「骨折」289件（2.5%）は前年度より40件以上減少した。9位「神経・脊髄の損傷」195件（1.7%）は前年度より4件減少した。同じく9位の「中毒」195件（1.7%）は件数が前年度より110件以上増加しており、外食によるものが多かった。（表6、表11）

表6 危害内容別上位10位（消費生活センター）

年度 順位	2011年度		
	危害内容	件数	割合 (%)
1	皮膚障害	3,853	33.5
2	その他の傷病及び諸症状	3,011	26.2
3	消化器障害	918	8.0
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	695	6.0
5	熱傷	690	6.0
6	刺傷・切傷	622	5.4
7	呼吸器障害	611	5.3
8	骨折	289	2.5
9	神経・脊髄の損傷	195	1.7
	中毒	195	1.7
総件数		11,493	100.0

(注) 2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。

### (3) 被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別は、女性が8,677件（75.5%）、男性が2,594件（22.6%）で、前年度と比べ女性の割合が10ポイント近く増えているが、「化粧品」の急増によるところが大きい。

年代別では、昨年度は2番目に多かった40歳代2,011件（17.5%）が最も多く、次いで4番目に多かった60歳代1,923件（16.7%）であった。以下、30歳代1,724件（15.0%）、50歳代1,685件（14.7%）、70歳以上1,630件（14.2%）、20歳代946件（8.2%）、10歳未満370件（3.2%）、10歳代335件（2.9%）と続いた。30歳代から70歳以上の件数の増加が大きい。（表7）

表7 年代別・性別危害件数（消費生活センター）

年代	性別		男		女		不明		計	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
10歳未満	165	6.4	150	1.7	55	24.8	370	3.2		
10歳代	132	5.1	198	2.3	5	2.3	335	2.9		
20歳代	199	7.7	745	8.6	2	0.9	946	8.2		
30歳代	380	14.6	1,341	15.5	3	1.4	1,724	15.0		
40歳代	405	15.6	1,604	18.5	2	0.9	2,011	17.5		
50歳代	328	12.6	1,354	15.6	3	1.4	1,685	14.7		
60歳代	393	15.2	1,528	17.6	2	0.9	1,923	16.7		
70歳以上	366	14.1	1,261	14.5	3	1.4	1,630	14.2		
不明	226	8.7	496	5.7	147	66.2	869	7.6		
合計	2,594	22.6	8,677	75.5	222	1.9	11,493	100.0		

（注）2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。

次に年代別に危害の多い商品・役務をみると、10歳未満は、1位は昨年度2位であった「外食」42件で24件の増加であった。次いで2位「家具類」18件で以下、「化粧品」17件、「菓子類」14件、「遊園地・レジャーランド」13件の順であった。「遊園地・レジャーランド」「玩具・遊具その他」など、他の年代では上位に出てこない商品が10位以内に入っていた。

10歳代は、1位は昨年度5位であった「化粧品」83件で75件増と急増した。次いで、2位「外食」27件、3位「自転車」23件であった。

20歳代は1位「エステティックサービス」211件、2位「化粧品」169件で昨年度より130件以上の増加であった。3位は「医療サービス」81件、4位「外食」75件、5位「美容院」39件であった。

30歳代以降はいずれも1位は化粧品で前年度より件数が急増していた。これは小麦加水分解物含有石けんに関する危害情報によるところが大きい。30歳代は、1位「化粧品」451件で昨年度より360件以上増加した。次いで「エステティックサービス」182件、3位「医療サービス」158件であった。

40歳代は、1位が「化粧品」688件で昨年度より560件以上の増加であった。次いで2位が「エステティックサービス」113件、3位が「医療サービス」107件であった。

50歳代は、1位が「化粧品」628件で昨年度より470件以上の増加であった。2位「医療サービス」98件、3位「健康食品」63件であった。

60歳代は、1位が「化粧品」756件で昨年度より610件以上の増加であった。2位は「健康食品」、「医療サービス」の103件であった。

70歳以上では、1位が「化粧品」513件で昨年度より450件以上の増加であった。次いで2位は「健康食品」204件で、3位「医療サービス」100件であった。70歳以上の特徴としては「家庭用電気治療

器具」や「デイケアサービス」等、他の年代には見られない商品・サービスが10位以内に入っていることである。(表12)

#### (4) 上位3商品・役務の危害の概要

「危害」の上位3商品・役務である「化粧品」「医療サービス」「エステティックサービス」の被害者の性別や危害内容等は次のとおりである。(表9、表11)

##### ①化粧品 (3,447件)

化粧品は3,447件 (30.0%) で、前年度の2位から1位になり、約2,800件増であった。

性別をみると、女性が3,220件 (93.4%) と9割以上を占めた。年代別では、60歳代が756件 (21.9%) で最も多く、次いで40歳代688件 (20.0%)、50歳代628件 (18.2%) の順である。

化粧品の内訳をみると「化粧石けん」2,729件 (79.2%) が8割近く占めており、以下「化粧クリーム」98件 (2.8%)、「化粧品セット」73件 (2.1%) であった。危害内容は「皮膚障害」が2,493件 (72.3%) と全体の7割以上を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」538件 (15.6%)、「呼吸器障害」362件 (10.5%) の順であった。

##### <事例>

- ・一昨年購入した洗顔用石けんを使っていた。運動すると首から上の顔面が痒く赤い湿疹が発生した。(30歳代・女性)
- ・化粧石けんを使用していた。スパゲティを食べた後、運動をしたところ蕁麻疹が現れて呼吸困難に陥った。命の危険性を感じた(50歳代・女性)
- ・制汗デオドラントスプレーを1週間毎日使用していた。脇の皮膚が赤くなりかゆみも出たため使用を中止したところ数日で治った。(50歳代・男性)
- ・通信販売で購入した脱毛剤を初めて使用したが湿疹ができた。今でも痒みがある。(20歳代・女性)
- ・ヘアカラーを使用したところ顔や胸に薬剤が付着した。かぶれて赤く腫れた。(50歳代・女性)

##### ②医療サービス (728件)

医療サービスは728件で、全体に占める割合は6.3%であり、前年度1位であったが2011年度は2位であった。

性別を見ると、女性が530件 (72.8%) と7割以上を占めていた。年代別では、30歳代が158件 (21.7%) で最も多く、以下、40歳代107件 (14.7%)、60歳代103件 (14.1%)、70歳以上100件 (13.7%) と続く。

危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」が367件 (50.4%) と半数以上を占め、次いで、「皮膚障害」159件 (21.8%)、「熱傷」49件 (6.7%) の順であった。

##### <事例>

- ・目頭の切開手術をしたところ瞼に傷が残った。(40歳代・女性)
- ・皮膚科で頬のシミ取りレーザー治療を受けたところ以前よりシミが濃くなって黒ずんでしまった。(60歳代・女性)
- ・豊胸手術を受けた。左右の形が異なり乳首も異なる方向に向いているし鈍い痛みも感じる。(40歳代・女性)
- ・膝の手術をしたが、足の腫れと痛みがとれず他の病院で調べてもらった。膝の中の金具がきちっととめられていないと言われた。(60歳代・女性)



- ・包茎・亀頭増大手術を受けたところ術後の経過が悪く他の病院に入院した。(30歳代・男性)

### ③エステティックサービス (616件)

エステティックサービスは616件で、前年度と同様3位であり23件増加したものの、化粧品の急増により全体に占める割合は5.4%と1.5ポイント減少した。

性別では、ほとんどが女性であり、590件(95.8%)となっている。年代別では20歳代が211件(34.3%)、次いで30歳代が182件(29.5%)で、両者で全体の6割以上を占める。

エステティックサービスの内訳をみると「美顔エステ」264件(42.9%)が最も多く、次いで、「脱毛エステ」150件(24.4%)、「痩身エステ」131件(21.3%)であった。危害内容は、「皮膚障害」250件(40.6%)が最も多く、次いで「その他の傷病及び諸症状」143件(23.2%)、「熱傷」102件(16.6%)であった。

#### <事例>

- ・娘がまつ毛エクステの施術を受けたところ翌日瞼が腫れあがった。店が紹介した医院で治療を受けているが治らない。(20歳代・女性)
- ・エステサロンで光脱毛を受けたところ足が凍傷になった。(40歳代・女性)
- ・まつ毛のエクステで角膜にキズをつけられた。失明のおそれがあると言われ入院した。  
(10歳代・女性)
- ・ブライダルエステでフェイシャルをした。未だに顔に赤みが残っている。(20歳代・女性)
- ・タウン誌で見つけたサロンで脱毛エステを2回受けたところ毛濃炎になってしまった。(30歳代・女性)

## 3 消費生活センターに寄せられた危険情報の概要

2011年度に収集した危険情報は3,702件で、前年度の4,106件と比べると404件の減少(前年度比90.2%)であった。(表1、図)

### (1) 商品等分類別件数、商品・役務別危険件数

#### ①商品等分類別件数

商品等分類別にみると、電子レンジ類、家具類、電気掃除機類、室内照明器具、消火器等の「住居品」が最も多く1,288件(34.8%)。以下、四輪自動車、自動二輪車、自転車等の「車両・乗り物」763件(20.6%)、テレビ、タバコ用品、パソコン、携帯電話、携帯型音響映像機器等の「教養娯楽品」421件(11.4%)、菓子類、調理食品、飲料、パン類等の「食料品」321件(8.7%)と続いた。(表2、表4)

#### ②商品・役務別危険件数

商品・役務別にみると、「四輪自動車」が490件(13.2%)と最も多かったが、前年度よりも件数が150件近く減少した。

2位は「化粧品」128件(3.5%)で前年度の12件から急増した。大部分は小麦加水分解物含有石けんに関するものである。

3位は「電子レンジ類」89件（2.4%）、4位は「自動二輪車」82件（2.2%）、5位は「菓子類」81件（2.2%）であった。

6位は「家具類」79件（2.1%）、7位「自転車」74件（2.0%）と続いた。8位は「電気掃除機類」64件（1.7%）、9位は「調理食品」63件（1.7%）、10位は「テレビ」60件（1.6%）であった。

1位以外は順位が変動しているという結果であった。（表10）

## (2) 危険の内容

危険の内容は、「発煙・火花」が最も多く550件（14.9%）で、内容をみると「四輪自動車」や「電気掃除機類」「テレビ」「電子レンジ類」「室内照明器具」などによるものが目立つ。

2位は「機能故障」472件（12.7%）で、「四輪自動車」「自動二輪車」が多い。

3位は「過熱・こげる」378件（10.2%）で、内容では「携帯電話」「電気洗濯乾燥機」「他の住居用電気器具」が多い。

4位は「破損・折損」356件（9.6%）で、「四輪自動車」「家具類」「自転車」が多かった。

5位は「異物の混入」345件（9.3%）で「菓子類」「調理食品」「外食」が多い。

6位は「発火・引火」332件（9.0%）で、「電子レンジ類」「携帯型音響映像機器」「こんろ類」が多かった。以下、7位「その他」327件（8.8%）、8位「破裂」238件（6.4%）、9位「部品脱落」133件（3.6%）、10位「操作・使用性の欠落」102件（2.8%）と続いた。（表8、表13）

表8 危険内容別上位10位（消費生活センター）

順位	年度	2011年度		
		危険内容	件数	割合 (%)
1		発煙・火花	550	14.9
2		機能故障	472	12.7
3		過熱・こげる	378	10.2
4		破損・折損	356	9.6
5		異物の混入	345	9.3
6		発火・引火	332	9.0
7		その他	327	8.8
8		破裂	238	6.4
9		部品脱落	133	3.6
10		操作・使用性の欠落	102	2.8
		総件数	3,702	100.0

(注) 2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。

## (3) 上位3商品・役務の危険の概要

「危険」の上位3商品・役務である「四輪自動車」「化粧品」「電子レンジ類」の危険の概要は次のとおりである。（表13）

### ①四輪自動車（490件）

「四輪自動車」490件の危険内容をみると、最も多いのは早期故障や故障頻発などの「機能故障」の283件（57.8%）で全体の6割近くを占めた。以下、「発煙・火花」45件（9.2%）、「破損・折損」41件

(8.4%)、「火災」32件(6.5%)「部品脱落」22件(4.5%)と続いた。

<事例>

- ・外国製乗用車がアクセルを踏んでもスピードが出ない不具合が1年半の間に3回も発生した。
- ・車を運転中、突然エアバッグが開いて目の前が真っ白になりフロントガラスにひびが入った。
- ・歩行中、静音設計のハイブリット車が接近したが気が付かず接触事故を起こしそうになった。
- ・インターネットオークションで購入した中古の外車を引き取りに行った帰りに高速で炎上した。
- ・新車を購入し引き渡しを受けた翌日にブレーキ部分から煙が出た。

②化粧品(128件)

「化粧品」(128件)の危険内容を見ると、「その他」123件(96.1%)で、それらのほとんどが、小麦加水分解物含有石けんに関するものである。以下、「異物の混入」2件(1.6%)、「バリ・鋭利」「操作・使用性の欠落」「異物の侵入」の各1件(0.8%)であった。

<事例>

- ・妻の実家にリコールの洗顔石けんがある。義母は少し使っただけでアレルギー反応は出ていないが心配でありメーカーに返品したい。
- ・通販で化粧石けんを注文し、現在は使用していない。体調の変化もないが、最近になって業者が製品を自主回収していることを知った。
- ・折込広告を見て洗顔石けんを購入し使用していたところ、旧商品を回収しているとの葉書が届いた。業者に連絡するがつかまらない。
- ・妻が参加した会で配られたお菓子セットの中に入っていたのでゼリー菓子と思い口に入れたところ石けんだった。紛らわしいし危険だ。
- ・市販のヘアカラーを使用したところ液が垂れて目に入り、床や服も汚れた。

③電子レンジ類(89件)

「電子レンジ類」(89件)の危険内容では、「発火・引火」31件(34.8%)、「発煙・火花」25件(28.1%)が多く、合わせて6割以上を占めた。

<事例>

- ・電子レンジでカップの水を温めようとしたらいつもより大きな音がして側面から火を噴いた。
- ・電子レンジでごはんを温めていたところ妙な匂いがした。見ると庫内で火が出てターンテーブル下のプラスチックが燃えていた。
- ・電子レンジでガラス容器に入れた液を温めていたら、容器が粉々に割れてしまった。
- ・夜中にバンと爆発音がしたため台所に行ったところレンジの内側の扉の複合ガラスに網目のような亀裂が入っていた。
- ・購入したばかりの電子レンジを使用中にタイマーが機能せずに食品が過加熱で焦げた。

## 4 消費生活センターに寄せられた危害・危険事例

### (1) 死亡事故事例

#### ① [旅館の電気ポットの熱湯]

旅館の部屋に用意されていた電気ポットを乳児が触れて倒し、全身に熱湯を浴びた。全身やけどで亡くなった。(10歳未満・男児)

#### ② [介護老人保健施設]

介護老人保健施設に入所していた母がリハビリ中に転倒した。翌日救急車で病院に搬送され後日死亡した。(70歳以上・女性)

#### ③ [まんじゅうのアンコによる窒息]

母がまんじゅうのアンコを気管に詰まらせて亡くなった。(70歳以上・女性)

### (2) 後遺症の可能性が大きい事故例と重症事故例

#### ① [冷茶ポット]

冷茶ポットに湯を入れた後取っ手を持ったところ、本体と蓋の継ぎ目が破損し湯が腹部にかかってやけどした。(20歳代・女性)

#### ② [圧力鍋]

調理後の圧力鍋の取っ手を持ち上げたところ、蓋が外れて飛んだ。煮汁などで上半身などに重度の火傷を負った。(30歳代・女性)

#### ③ [冷却スプレー]

車の中で瞬間冷却スプレーを使って4、5分後、煙草を吸うためにライターに火をつけたところ、運転席に火がついて顔などにやけどした。(30歳代・男性)

#### ④ [自転車]

自転車に乗車中、突如前輪のフォークが折損し転倒した。胸椎を骨折するなどして1か月入院し、通院中である。(50歳代・男性)

#### ⑤ [肥料用消石灰]

母が畑で転び、肥料用消石灰が左眼に入り失明。袋に危険の表示がない。(70歳以上・女性)

### (3) 知っている人が少ないと思われる事故例

#### ① [ガラス蓋]

ホットプレートのガラスの蓋が使用中にポンと音がしてガラスが飛び散り破片が手に刺さった。(30歳代・男性)

② 【鍋と五徳】

ガスコンロを買い替えた。五徳の上で鍋が滑りやすい。もう3回も鍋をひっくり返してしまった。危険だと思う。

③ 【ウォーターサーバー】

ウォーターサーバーを使用している。息子がかまきり立ちをした際に器械に触ったらしく、左人差し指にやけどをした。(10歳未満・男児)

④ 【舌ブラシ】

妻が舌苔を取るため全体にループ状のブラシが付いた舌ブラシを使用中、有郭乳頭に引っかかり取れなくなった。(50歳代・女性)

⑤ 【耳かき】

耳掃除をしていたところ、耳かきの先が取れて中に残った。取り出せたが耳の中を傷つけた。(40歳代・男性)

(4) 目新しい商品・役務による事故例

① 【電子レンジ専用鍋】

電子レンジ専用鍋で魚を調理したら発火し樹脂素材のふたのつまみが焦げた。

② 【自動掃除ロボット】

自動掃除ロボットを使用したところ階段から落ちて機械は分解、階段にも多数の傷ができた。

③ 【濯ぎ一回で済む液体洗剤】

夫が会社から帰宅すると全身にジンマシンが出ていた。濯ぎ一回で済むという液体洗剤で洗濯した衣類を着た時に発症した。(年齢不明・男性)

④ 【保温効果のある紳士用の半袖下着】

保温効果のある紳士用の半袖下着を購入し着用したところ、袖と肌がすれて赤くなり痒みと痛みが出た。(40歳代・男性)

⑤ 【規制後のライター】

規制後のライターのスライド部分が硬くて使い辛く、親指に火が当たって危険である。

## 5 医療機関ネットワークに寄せられた危害情報の概要

2011年度に医療機関ネットワーク事業の参画医療機関(13病院)から収集した危害情報は5,480件であり、前年度の1,191件(2010年12月~2011年3月末)と比べると4,289件(460.1%)の増加であった。(表1、図)



### (1) 商品等分類別、商品・役務別危害件数

事故の原因となったものを商品等分類別にみると、上位3位は、主にベッド、椅子、机・テーブル類全般などの家具類や、包丁、鍋などの調理器具が含まれる「住居品」1,937件（35.3%）、階段、主にドアなどの建具、床が含まれる「土地・建物・設備」1,335件（24.4%）、主に滑り台、ブランコ、鉄棒などの遊具、積み木等の玩具・遊具その他、タバコが含まれる「教養娯楽品」836件（15.3%）であった。（表2、表5）

商品・役務別にみると、上位3位は「家具類」1,096件（20.0%）、「階段」486件（8.9%）、「自転車」327件（6.0%）となっている。次いで、「遊具」286件（5.2%）、「建具」249件（4.5%）、へい、車庫などの「屋外装備品その他」159件（2.9%）、「四輪自動車」113件（2.1%）となっている。

以降、「玩具・遊具その他」104件（1.9%）、「調理器具」89件（1.6%）、「他の家具・寝具類」86件（1.6%）が続く。（表14）

### (2) 被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の特徴を年代別にみると、10歳未満が4,237件と全体の77.3%を占めており、中でも0～2歳の乳幼児は2,485件（45.3%）で最も多かった。10歳代の347件（6.3%）と合わせると、20歳未満で全体の8割以上を占めた。なお、20歳代は107件（2.0%）であった。10歳未満が件数が多いのは子どもを対象とした医療機関からの情報が特に多かったことによるものである。

性別では、男性3,177件（58.0%）、女性2,303件（42.0%）で男性の件数が874件多かった。年代別にみると、20歳代と70歳以上では女性の方が件数が多かった。（表15）

### (3) 危害の程度

医療機関ネットワークから収集した情報は、危害の程度を次の5段階に分類している。

軽 症：入院を要さない傷病
中等症：生命に危険はないが、入院を要する状態
重 症：生命に危険が及ぶ可能性が高い状態
重篤症：生命に危機が迫っている状態
死 亡

危害の程度ごとに集計したところ、入院を要さない軽症が4,804件（87.7%）と最も多く、以下、中等症が624件（11.4%）、重症が48件（0.9%）、重篤症が2件（0.1%未満）であった。なお、死亡は2件（0.1%未満）であった。

年代別にみると、10歳未満は件数が多いが92.6%は軽症であった。60歳代、70歳以上では各年代に占める軽症の割合が6割前後であった。なお、死亡の2件はいずれも70歳以上であった。（表16）

### (4) 年代別の危害発生上位10商品・役務

年代別に危害発生件数上位の商品・役務をみると、「階段」がいずれの年代も上位に入っていた。また、「家具類」は0～2歳、3～5歳で1位、10歳代、70歳以上で2位、6～9歳で3位などとなっていた。

年代ごとの特徴をみてみると、10歳未満の1位はベッド、椅子などの「家具類」、2位は「階段」、3位は滑り台、ブランコ、鉄棒などの「遊具」で、続いて「自転車」、ドアやサッシなどの「建具」

などが上位に入っていた。年齢をさらに細分してみると、上述の通り0～2歳、3～5歳はベッドや椅子などの「家具類」、6～9歳は「自転車」が1位であった。

10歳代は1位が「自転車」、以下椅子や二段ベッドなどの「家具類」、次いでブランコ、滑り台、鉄棒などの「遊具」、「階段」であった。

20歳代は、1位が「階段」で2位が包丁や鍋などの「調理器具」、次いでコップなどの「食器」と続いた。

30歳代は、1位が包丁などの「調理器具」で、2位が「階段」、次いでコップなどの「食器」と続いた。

40歳代は、「化粧品」、「階段」、脚立などの「家庭用手動工具」が同数で1位であった。

50歳代は、1位が包丁などの「調理器具」で2位が「階段」、3位が脚立などの「家庭用手動工具」と続いた。

60歳代は1位が「階段」で、2位が脚立やはしごなどの「家庭用手動工具」、3位が電動丸のこなどの「家庭用電動工具」と芝刈り機などの「園芸用品」であった。

70歳以上は「階段」が最も多く、次いでベッドや椅子などの「家具類」、次いで脚立やはしごなどの「家庭用手動工具」の順であった。(表17)

#### (5) 危害内容別商品・役務

危害内容別にどんな商品・役務が多かったかをみると、「擦過傷・挫傷・打撲傷」(3,133件)では「家具類」が924件(29.5%)で最も多く、「階段」369件(11.8%)、「自転車」266件(8.5%)などが続いた。

「刺傷・切傷・裂傷」(626件)では、「家具類」90件(14.4%)の他、「調理器具」84件(13.4%)や、「階段」「食器」の37件(5.9%)などであった。

「異物侵入」(539件)は主に誤飲の事故であるが、「医薬品類」50件(9.3%)、「タバコ用品」49件(9.1%)、積み木などの「玩具・遊具その他」45件(8.3%)と多かった。

「熱傷」(502件)は「調理食品」55件(11.0%)、コーヒーや緑茶などの「飲料」48件(9.6%)、即席めんなどの「めん類」42件(8.4%)と多かった。

「骨折」(348件)は「階段」54件(15.5%)、椅子やソファなどの「家具類」51件(14.7%)、滑り台やブランコ、鉄棒などの「遊具」44件(12.6%)などが多かった。(表18)

#### (6) 上位3商品・役務の危害の概要

危害の上位3商品・役務である「家具類」、「階段」、「自転車」の概要は以下のとおりである。(表18)

##### ①家具類(1,096件)

年代は10歳未満が1,017件で最も多く、全体の92.8%を占めた。中でも0～2歳が730件で突出して多かった。10歳未満に次いで多いのは70歳以上の35件(3.2%)、10歳代の32件(2.9%)となっていた。

危害内容は「擦過傷・挫傷・打撲傷」が924件(84.3%)で最も多く、次いで「刺傷・切傷・裂傷」90件(8.2%)で、この二つで全体の9割以上を占めた。以下「骨折」51件(4.7%)が続いた。

<事例>

##### 【二段ベッドからの転落事故】

睡眠中に二段ベッドから転落した。左頬部が著明に腫脹したため、受診した。左顔面打撲、皮下血腫があり、口腔内左頬部に咬傷で、粘膜下出血が著明で左肩打撲痕あり。(10歳代・男性・中等症)

**【二段式のタンスの落下事故】**

二段式のタンスが落ちて来て顔に当たり鼻を骨折した。(20歳代・女性・中等症)

**【椅子からの転落事故】**

畳の部屋にあった椅子の上に立って作業をしていたところ誤って転落し大腿骨を骨折した。(70歳以上・男性・中等症)

**【ベビーベッドからの転落事故】**

ベビーベッドから転落した。大人用ベッドをくっつけていたため、柵はしていなかった。フローリング上で仰向けになって声を上げて泣いていた。右側頭部腫脹発赤があった。(4ヶ月・女児・中等症)

**【ベッドからの転落事故】**

目を離していた間に子どもがベッドから転落していた。頭を下にしてベッドとベッドの間に挟まっているような状態であった。(7ヶ月・男児・中等症)

**②階段(486件)**

年代は10歳未満が332件で最も多く、全体の68.3%を占めた。中でも0～2歳が217件で突出して多かった。10歳未満に次いで多いのは70歳以上の60件(12.3%)であった。

危害内容は「擦過傷・挫傷・打撲傷」が369件(75.9%)で最も多く、次いで「骨折」54件(11.1%)、「刺傷・切傷・裂傷」37件(7.6%)と続き、上位3位までで全体の94.7%を占めた。

**<事例>****【階段からの転落事故】**

自宅の階段から転落し、外傷性硬膜下・くも膜下出血と左鎖骨近位部骨折で入院となった。(70歳以上・女性・中等症)

**【階段からの転落事故】**

階段を降りる途中、めまいがしてふらついた。足を踏み外して転落し、頸椎の3番目と4番目を損傷した。(70歳以上・男性・重症)

**【階段からの転落事故】**

家で大きな物音したので確認したところ階段から落ちているのを発見した。頭部より出血しており救急要請した。第1頸椎骨折、第7頸椎棘突起骨折、前頭部挫創などで入院となった。(70歳以上・男性・重症)

**【階段からの転落事故】**

自宅の階段を降りていたところ、最後の1段で転落した。立ち上がることができず、左大腿部を動かしていない状態であった。(2歳・女児・中等症)

**【階段からの転落事故】**

自宅のロフトの階段を上っていたところ転落した。泣いており意識明瞭だったが右腕が骨折してい

た。(3歳・男児・中等症)

### ③自転車(327件)

年代は10歳未満の233件(71.3%)が最も多く、次いで10歳代59件(18.0%)であり、20歳未満で9割近くを占めた。

危害内容は「擦過傷・挫傷・打撲傷」が266件(81.3%)、「骨折」33件(10.1%)、「刺傷・切傷・裂傷」14件(4.3%)で上位3位までで全体の95.7%を占めていた。

<事例>

#### 【3人乗り自転車からの転落事故】

3人乗り自転車に3人で乗っていたところバランスを崩して左側に転倒した。ヘルメットとベルトは着用していたが左肘部を中心に発赤と腫脹が軽度あった。(2歳・女児・中等症)

#### 【自転車の取っ手にかけた傘での事故】

自転車に乗っていたところ、取っ手にかけた傘が前輪に挟まったため、転倒した。右肘を打撲し、痛みと腫脹があった。(10歳代・男性・中等症)

#### 【自転車のタイヤの挟まり事故】

自転車のタイヤにバッグが挟まって道路に転倒した。左腕を骨折した。(8歳・男児・中等症)

#### 【自転車の転倒事故】

自転車で坂道を下っている時にライトを足で操作しようとしたところ転倒し、下顎を地面にぶつけ挫創するとともに右手が腫脹し左手指に擦過傷を負った。右側腹部にも痛みがある。(10歳代・女性・中等症)

#### 【自転車の後輪の巻き込み事故】

自転車の後方荷台に子どもを乗せていたところ後輪に左かかと部分が巻き込まれ足首から先を挫滅した。(4歳・男児・中等症)

### (7) 入院を要する事故の危害内容別、商品・役務別件数

入院を要する事故は370件であった。

危害内容で最も多かったのは「骨折」113件(30.5%)で、「階段」、「家具類」、「家庭用手動工具」、「戸建住宅」、「遊具」などによる事故が目立った。

次いで多かったのは「擦過傷・挫傷・打撲傷」53件(14.3%)で、「自転車」、「階段」、「家具類」、「遊具」によるものが多かった。

3位は「熱傷」48件(13.0%)で、「飲料」「電気ポット類」「ガステーブル」「鍋類」などによるものが多かった。(表19)

### (8) 入院を要する事故事例

#### 【耳かきによる事故】

耳かきをしていたところ兄弟と接触し、耳かきが奥に入って出血した。耳かきは竹製で先の屈曲部

分が二股に割れていた。頻回の嘔吐、ふらつきの症状や外傷性の鼓膜穿孔、外傷性耳小骨離断があるため入院となった。(3歳・男児・中等症)

#### 【草刈り機の歯の接触事故】

山林で草刈り機を使用していたところ左足第1指に接触し爪部、骨欠損をした。左足第1指の切断・断端形成術のため入院となった。(60歳代・男性・中等症)

#### 【スプレー缶の引火による事故】

台所の流しでトイレ芳香剤の缶をつぶしていた。近くのコンロに鍋をかけていたところ引火して爆発した。下口唇から下顎、頸、両上腕から前腕にやけど(IからII度)、発赤があり、両上肢の一部は皮膚剥離しており、入院となった。(60歳代・女性・重症)

#### 【磁石玩具の誤飲事故】

何度か腹痛があったため救急病院を受診したところ、胃内に数個の異物があった。母親の話より昨日磁石玩具がなくなっており、これを飲み込んだと思われた。異物除去手術目的で当院を受診した。腹部レントゲン結果、十二指腸と胃内に複数の磁石があり非常に磁力が強く、マグネットカテーテルでの摘出は困難と判断し全麻下内視鏡での摘出となった。(5歳・男児・重症)

#### 【スリングからの転落事故】

母親が子供をスリングで抱っこしていた。片膝を着いた状態で片方の手でベビーカーをたたもうとしたところ児が滑り落ちるように臀部から転落し、弾みで後頭部を打撲した。右頭頂部に頭血腫があり、入院することとなった。(1ヶ月・女児・中等症)

### (9) 死亡事故事例

#### 【ローソクの火による着衣着火事故】

仏壇のローソクの火がワンピース型の服に燃え移った。自力で服を脱ぎ消火したが、やけどII～III度で死亡した。(70歳以上・女性)

#### 【梯子からの転落事故】

梯子で剪定作業中に1mの高さから転落した。出血性ショック、第5腰椎横突起骨折、仙骨骨折、急性腎不全などにより3日後に死亡した。(70歳以上・男性)

### (10) 情報の活用

国民生活センターでは2011年度に以下について現地調査等を実施した。

- ・軽トラックの事故
- ・電気のこぎりの事故
- ・草刈機の事故
- ・除雪機の事故①
- ・除雪機の事故②

また、医療機関ネットワークの情報を活用した消費者への注意喚起としては以下がある。



- ・「子どもを自転車に乗せたときの転倒に注意！」2011年9月22日公表
- ・「家庭用電動工具の使い方に注意！ - 指の切断や内臓損傷の事故も -」2011年12月8日公表  
消費者庁においては以下のとおり、事業開始から24年3月末までに収集した事故情報をとりまとめ公表している。

「『医療機関ネットワーク事業』で収集した事故情報について」2012年6月13日消費者庁公表  
[http://www.caa.go.jp/safety/pdf/120613kouhyou\\_1.pdf](http://www.caa.go.jp/safety/pdf/120613kouhyou_1.pdf)

表9 危害発生件数上位10商品・役務の推移（消費生活センター）

順位	2007年度 8,545件			2008年度 8,434件			2009年度 8,217件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	エステティックサービス	633	7.4	化粧品類	615	7.3	医療サービス	640	7.8
2	医療サービス	632	7.4	医療サービス	577	6.8	化粧品	638	7.8
3	化粧品類	611	7.2	エステティックサービス	520	6.2	エステティックサービス	610	7.4
4	健康食品	509	6.0	健康食品	460	5.5	健康食品	459	5.6
5	調理食品	390	4.6	外食	356	4.2	外食	363	4.4
6	外食	361	4.2	調理食品	286	3.4	調理食品	241	2.9
7	菓子類	239	2.8	飲料	256	3.0	美容院	227	2.8
8	美容院	226	2.6	美容院	244	2.9	家具類	198	2.4
9	歯科治療	185	2.2	菓子類	226	2.7	歯科治療	191	2.3
10	飲料	183	2.1	歯科治療	210	2.5	飲料	168	2.0

順位	2010年度 8,595件			2011年度 11,493件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	医療サービス	712	8.3	化粧品	3,447	30.0
2	化粧品	649	7.6	医療サービス	728	6.3
3	エステティックサービス	593	6.9	エステティックサービス	616	5.4
4	健康食品	423	4.9	健康食品	533	4.6
5	外食	335	3.9	外食	438	3.8
6	美容院	250	2.9	歯科治療	296	2.6
7	調理食品	246	2.9	美容院	273	2.4
8	歯科治療	241	2.8	調理食品	252	2.2
9	家具類	240	2.8	家具類	218	1.9
10	菓子類	173	2.0	飲料	199	1.7

(注) 2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。2009年度から商品・役務等分類の一部を変更したため、2008年度以前と2009年度以降での時系列的な比較はできない。

表10 危険発生件数上位10商品・役務の推移（消費生活センター）

順位	2007年度 4,558件			2008年度 3,974件			2009年度 3,614件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	自動車	768	16.8	自動車	574	14.4	四輪自動車	542	15.0
2	ストーブ	196	4.3	ストーブ	285	7.2	電子レンジ類	125	3.5
3	調理食品	165	3.6	電子レンジ類	131	3.3	テレビ	96	2.7
4	電子レンジ類	150	3.3	テレビ	95	2.4	自転車	88	2.4
5	テレビ	137	3.0	菓子類	84	2.1	家具類	85	2.4
6	石油ファンヒーター	106	2.3	調理食品	81	2.0	ハロゲンヒーター	83	2.3
7	修理サービス	94	2.1	電気洗濯機	73	1.8	室内照明器具	74	2.0
8	自転車	94	2.1	自動二輪車	72	1.8	修理サービス	73	2.0
9	室内照明器具	86	1.9	修理サービス	70	1.8	自動二輪車	73	2.0
10	自動二輪車	72	1.6	ベビーカー	64	1.6	鍋類	68	1.9
				石油ファンヒーター	64	1.6			

順位	2010年度 4,106件			2011年度 3,702件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	四輪自動車	639	15.6	四輪自動車	490	13.2
2	電子レンジ類	115	2.8	化粧品	128	3.5
3	テレビ	113	2.8	電子レンジ類	89	2.4
4	自転車	111	2.7	自動二輪車	82	2.2
5	家具類	103	2.5	菓子類	81	2.2
6	自動二輪車	83	2.0	家具類	79	2.1
7	消火器	83	2.0	自転車	74	2.0
8	石油ファン・クリーンヒーター	82	2.0	電気掃除機類	64	1.7
9	菓子類	74	1.8	調理食品	63	1.7
10	他の住居用電気器具	73	1.8	テレビ	60	1.6

(注) 2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。2009年度から商品・役務等分類の一部を変更したため、2008年度以前と2009年度以降での時系列的な比較はできない。

表11 危害内容別上位商品・役務（消費生活センター）

危害内容 商品・役務	危害内容																			2011年度計	割合(%)	
	骨折	脱臼・捻挫	切断	擦過傷・挫傷・打撲傷	刺傷・切傷	頭蓋(内)損傷	内臓損傷	神経・脊髄の損傷	筋・腱の損傷	窒息	感覚機能の低下	熱傷	凍傷	皮膚障害	感電障害	中毒	呼吸器障害	消化器障害	その他の傷病及び諸症状			不明
全体	289	81	12	695	622	19	7	195	46	24	108	690	14	3,853	23	195	611	918	3,011	80	11,493	100.0
化粧品	0	0	0	3	7	0	0	1	0	3	9	5	0	2,493	0	0	362	10	538	16	3,447	30.0
医療サービス	17	1	0	10	13	4	5	23	0	6	28	49	2	159	0	1	10	20	367	13	728	6.3
エステティックサービス	3	1	0	75	13	0	0	4	3	0	7	102	2	250	1	0	1	10	143	1	616	5.4
健康食品	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	0	0	153	0	1	6	186	177	5	533	4.6
外食	14	7	0	19	40	1	0	5	1	0	0	54	0	11	0	92	2	132	59	1	438	3.8
歯科治療	0	0	0	9	22	0	0	13	1	0	3	5	0	4	0	0	3	2	233	1	296	2.6
美容院	1	2	0	6	12	0	0	8	0	0	4	38	0	131	0	0	1	0	70	0	273	2.4
調理食品	2	0	0	2	31	0	0	0	1	0	1	11	0	10	0	29	4	113	47	1	252	2.2
家具類	12	5	0	48	33	0	0	12	1	0	1	1	0	20	0	0	10	0	71	4	218	1.9
飲料	0	1	0	5	7	0	0	0	0	0	0	9	0	22	0	1	6	93	54	1	199	1.7
商品一般	41	12	0	56	23	2	0	16	2	0	0	2	1	2	0	0	2	0	15	2	176	1.5
賃貸アパート・マンション	4	3	0	9	4	0	0	3	0	0	0	4	0	24	0	1	40	3	67	4	166	1.4
菓子類	1	0	0	2	16	0	0	0	0	3	1	2	1	10	0	7	4	50	48	0	145	1.3
他の保健衛生用品	0	0	0	4	7	0	0	0	0	0	3	25	4	47	0	0	5	1	25	0	121	1.1
自転車	23	7	2	56	5	1	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	1	111	1.0
医薬品類	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	4	4	0	22	0	2	4	17	38	4	101	0.9
家庭用電気治療器具	2	2	0	6	1	0	0	3	1	0	0	5	0	16	1	0	1	4	56	0	98	0.9
靴・運動靴	7	7	0	33	10	1	0	3	0	0	0	2	0	14	0	0	0	0	15	1	93	0.8
ふとん類	0	0	0	4	12	0	0	4	0	0	0	0	1	28	0	0	6	1	33	0	89	0.8
メガネ・コンタクトレンズ	1	0	0	3	5	0	0	0	0	0	7	0	0	13	0	0	0	0	55	0	84	0.7

(注) 2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。2009年度から商品・役務等分類の一部を変更している。

表12 年代別危害発生上位商品・役務（消費生活センター）

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位	
10歳未満		外食 42	家具類 18	化粧品 17	菓子類 14	遊園地・ レジャーランド 13	
10歳代		化粧品 83	外食 27	自転車 23	調理食品 16	医療サービス 14	
20歳代		エステティッ クサービス 211	化粧品 169	医療サービス 81	外食 75	美容院 39	
30歳代		化粧品 451	エステティッ クサービス 182	医療サービス 158	外食 91	調理食品 53	
40歳代		化粧品 688	エステティッ クサービス 113	医療サービス 107	外食 82	美容院 58	
50歳代		化粧品 628	医療サービス 98	健康食品 63	エステティッ クサービス 47	美容院 46	
60歳代		化粧品 756	健康食品 103	医療サービス 103	歯科治療 63	飲料 44	
70歳以上		化粧品 513	健康食品 204	医療サービス 100	歯科治療 52	家庭用電気治 療器具 48	
不明		化粧品 142	医療サービス 60	外食 38	健康食品 36	調理食品 29	
年代	順位	6位	7位	8位	9位	10位	累計 (%)
10歳未満		商品一般 12	玩具・ 遊具その他 10	飲料 10	自転車 9	調理食品、他の 保健衛生用品 8	43.5
10歳代		エステティッ クサービス 11	家具類 11	賃貸アパート・ マンション 10	菓子類 8	医薬品類 7	62.7
20歳代		賃貸アパート・ マンション 28	健康食品 23	他の理美容 サービス 18	歯科治療 16	調理食品 15	71.4
30歳代		歯科治療 45	美容院 44	賃貸アパート・ マンション 40	健康食品 40	家具類 27	65.6
40歳代		健康食品 55	調理食品 53	歯科治療 44	家具類 39	商品一般 34	63.3
50歳代		歯科治療 44	外食 42	商品一般 31	家具類 26	調理食品 25	62.3
60歳代		商品一般 39	家具類 38	調理食品 33	美容院 30	外食 28	64.3
70歳以上		飲料 33	デイケアサービス 28	商品一般 28	菓子類、家具類、美容院 22		65.8
不明		美容院 27	家具類 25	エステティッ クサービス 22	歯科治療 22	賃貸アパート・ マンション 21	48.6
累計							7,231 62.9

(注) 2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。2009年度から商品・役務等分類の一部を変更している。

表13 危険内容別上位商品・役務（消費生活センター）

危険内容 商品・役務	危険内容																				2011年度計	割合(%)		
	火災	発火・引火	発煙・火花	過熱・こげる	ガス爆発	ガス漏れ	点火・燃焼・消火不良	漏電・電波等の障害	燃料・液漏れ等	化学物質による危険	破裂	破損・折損	部品脱落	機能故障	転落・転倒・不安定	バリ・鋭利	操作・使用性の欠落	腐敗・変質	異物の混入	異物の侵入			その他	不明
全体	94	332	550	378	11	22	88	28	91	15	238	356	133	472	69	13	102	36	345	2	327	0	3,702	100.0
四輪自動車	32	11	45	9	0	0	0	0	16	1	10	41	22	283	0	0	9	0	0	0	11	0	490	13.2
化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	123	0	128	3.5
電子レンジ類	1	31	25	10	0	0	0	0	1	0	7	6	0	5	0	0	0	0	0	0	3	0	89	2.4
自動二輪車	5	4	4	3	0	0	0	0	3	0	0	5	4	49	0	0	1	0	0	0	4	0	82	2.2
菓子類	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	54	1	5	0	81	2.2
家具類	0	2	2	3	0	0	0	0	0	1	6	39	9	0	9	2	3	0	2	0	1	0	79	2.1
自転車	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	26	22	10	3	0	7	0	0	0	3	0	74	2.0
電気掃除機類	1	12	34	7	0	0	0	0	1	0	3	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	64	1.7
調理食品	0	3	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	52	0	1	0	63	1.7
テレビ	0	7	28	15	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	6	0	60	1.6
室内照明器具	2	5	25	10	0	0	0	0	0	0	5	4	2	0	3	0	0	0	0	0	1	0	57	1.5
賃貸アパート・マンション	3	2	4	4	0	1	4	3	3	0	0	10	0	3	4	0	5	0	1	0	9	0	56	1.5
タバコ用品	0	8	1	3	2	3	15	0	0	0	7	5	2	2	0	0	2	0	2	0	1	0	53	1.4
修理サービス	1	2	7	5	0	0	2	0	3	0	0	6	7	16	0	0	0	0	0	0	4	0	53	1.4
消火器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	52	1.4
電球類	1	2	20	3	0	0	0	0	0	0	11	6	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	49	1.3
他の住居用電気器具	1	11	15	18	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49	1.3
石油ファン・クーラー・ヒーター	0	9	14	7	0	0	10	0	4	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	48	1.3
外食	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	35	0	4	0	45	1.2
鍋類	0	3	1	0	0	0	0	0	5	0	20	9	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	45	1.2

(注) 2012年5月末日までの登録分。2007年度から「経由相談」を除いている。2009年度から商品・役務等分類の一部を変更している。



表14 危害発生件数上位10商品・役務の推移（医療機関ネットワーク）

年度 順位	2010年度 1,191件			2011年度 5,480件		
	商品・役務	件数	割合 (%)	商品・役務	件数	割合 (%)
1	家具類	221	18.6	家具類	1,096	20.0
2	階段	100	8.4	階段	486	8.9
3	自転車	60	5.0	自転車	327	6.0
4	遊具	53	4.5	遊具	286	5.2
5	建具	46	3.9	建具	249	4.5
6	屋外装備品その他	34	2.9	屋外装備品その他	159	2.9
7	四輪自動車	34	2.9	四輪自動車	113	2.1
8	医薬品類	26	2.2	玩具・遊具その他	104	1.9
9	床	25	2.1	調理器具	89	1.6
10	他の浴室関連設備	20	1.7	他の家具・寝具類	86	1.6
	他の家具・寝具類	20	1.7			
合計		639	53.7		2,995	54.7

表15 年代別・性別危害件数（医療機関ネットワーク）

年代	性別	男性		女性		計	
		件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
10歳未満	0～2歳	1,456	45.8	1,029	44.7	2,485	45.3
	3～5歳	690	21.7	448	19.5	1,138	20.8
	6～9歳	379	11.9	235	10.2	614	11.2
	小計	2,525	79.5	1,712	74.3	4,237	77.3
	10歳代	211	6.6	136	5.9	347	6.3
	20歳代	49	1.5	58	2.5	107	2.0
	30歳代	53	1.7	51	2.2	104	1.9
	40歳代	65	2.0	50	2.2	115	2.1
	50歳代	61	1.9	58	2.5	119	2.2
	60歳代	73	2.3	68	3.0	141	2.6
	70歳以上	140	4.4	170	7.4	310	5.7
	合計	3,177	100.0	2,303	100.0	5,480	100.0
	性別割合 (%)		58.0		42.0		100.0

表16 年代別危害程度（医療機関ネットワーク）

年代	程度	計	軽症		中等症		重症		重篤症		死亡	
			件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
10歳未満	0～2歳	2,485	2,337	94.0	140	5.6	8	0.3	0	0.0	0	0.0
	3～5歳	1,138	1,057	92.9	77	6.8	4	0.4	0	0.0	0	0.0
	6～9歳	614	531	86.5	81	13.2	2	0.3	0	0.0	0	0.0
	小計	4,237	3,925	92.6	298	7.0	14	0.3	0	0.0	0	0.0
	10歳代	347	270	77.8	75	21.6	2	0.6	0	0.0	0	0.0
	20歳代	107	86	80.4	20	18.7	1	0.9	0	0.0	0	0.0
	30歳代	104	83	79.8	21	20.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	40歳代	115	79	68.7	33	28.7	3	2.6	0	0.0	0	0.0
	50歳代	119	92	77.3	23	19.3	3	2.5	1	0.8	0	0.0
	60歳代	141	86	61.0	49	34.8	6	4.3	0	0.0	0	0.0
	70歳以上	310	183	59.0	105	33.9	19	6.1	1	0.3	2	0.6
	合計	5,480	4,804	87.7	624	11.4	48	0.9	2	0.1%未満	2	0.1%未満

表17 年代別危害発生上位商品・役務（医療機関ネットワーク）

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満	0～2歳	家具類 730	階段 217	建具 111	自転車 66	玩具・遊具 その他 59
	3～5歳	家具類 224	遊具 114	階段 81	自転車 80	建具 73
	6～9歳	自転車 87	遊具 82	家具類 63	屋外装備品 その他 38	階段 34
	小計	家具類 1,017	階段 332	遊具 254	自転車 233	建具 209
10歳代	自転車 59	家具類 32	遊具 27	階段 27	建具 18	
20歳代	階段 16	調理器具 12	食器 8	スキー・スノー ボード用品 5	自転車 5	
30歳代	調理器具 11	階段 8	食器 6	他の文具・ 事務用具 5	他の保健衛生 用品 4	
40歳代	化粧品 11	階段 11	家庭用手工 工具 11	家庭用電動 工具 7	自転車 6	
50歳代	調理器具 14	階段 12	家庭用手工 工具 10	自転車 6	化粧品 6	
60歳代	階段 20	家庭用手工 工具 18	家庭用電動 工具 7	園芸用品 7	他の商品 6	
70歳以上	階段 60	家具類 35	家庭用手工 工具 24	戸建住宅 17	屋外装備品 その他 12	

年代	順位	6位	7位	8位	9位	10位	累計 (%)
10歳未満	0～2歳	遊具 58	他の家具・ 寝具類 55	ベビーカー 48	タバコ用品 46	飲料 44	57.7
	3～5歳	屋外装備品 その他 55	四輪自動車 39	玩具・遊具 その他 30	他の浴室関連 設備 19	他の家具・ 寝具類 15	64.1
	6～9歳	建具 25	四輪自動車 12	床 12	風呂釜・浴槽 12	玩具・遊具 その他 11	61.2
	小計	屋外装備品 その他 124	玩具・遊具 その他 100	四輪自動車 85	他の家具・ 寝具類 78	床 59	58.8
10歳代	屋外装備品 その他 15	他の保健衛生 用品 9	調理器具 9	調理食品 8	めん類、 四輪自動車 7	62.8	
20歳代	化粧品 5	建築材料 4	鍋類 3	他の文具・事務用具、飲料、他の 保健衛生用品、こんろ類、めん 類、他の商品、建具、他の建物、 家庭用電動工具、調理食品、釣用 品、ガステーブル、園芸用品		2	78.5
30歳代	油脂 4	四輪自動車、鍋類、自動二輪車、自転車、遊具、化粧品、家庭用電動工具、 家庭用手工工具				3	59.6
40歳代	調理器具 5	園芸用品 5	医薬品類 5	食器 4	油脂 4	4	60.0
50歳代	四輪自動車 5	家具類 5	医薬品類 4	食器 4	園芸用品 4	4	58.8
60歳代	自転車 6	調理器具 5	やかん類 5	医薬品類、化粧品、建具		4	61.0
70歳以上	園芸用品 11	医薬品類 10	自転車 9	建具 9	四輪自動車、 調理器具、 他の商品	8	68.1
累 計						3,291	60.1

(注) 累計では10歳未満の件数について「10歳未満 小計」の件数を用いた。

表18 危害内容別上位商品・役務（医療機関ネットワーク）

危害内容 商品・役務	危害内容																			2011年度計	割合(%)	
	骨折	脱臼・捻挫	切断	擦過傷・挫傷・打撲傷	刺傷・切傷・裂傷	びらん・炎症(眼・皮膚障害等)	頭蓋内損傷	内臓損傷	神経・脊髄の損傷	筋・腱の損傷	窒息	感覚機能の低下(難聴・失明等)	熱傷	凍傷	中毒	呼吸器障害	消化器障害	異物侵入	その他の傷病及び諸症状			不明
総件数	348	72	11	3,133	626	82	28	16	16	11	10	3	502	0	12	15	1	539	55	0	5,480	100.0
家具類	51	11	0	924	90	1	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	7	0	1,096	20.0
階段	54	12	0	369	37	0	3	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	486	8.9
自転車	33	10	0	266	14	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	327	6.0
遊具	44	8	0	210	13	0	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	0	286	5.2
建具	11	6	0	198	26	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	249	4.5
屋外装備品 その他	12	2	0	130	13	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	159	2.9
四輪自動車	12	3	0	91	4	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	113	2.1
玩具・遊具 その他	3	0	0	44	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	3	0	104	1.9
調理器具	0	0	0	4	84	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	89	1.6
他の家具・ 寝具類	2	0	0	67	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	86	1.6
家庭用手動 工具	22	2	0	41	7	0	4	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	82	1.5
医薬品類	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	0	50	4	0	76	1.4
床	4	1	0	64	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	1.3
食器	0	0	0	11	37	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	10	0	0	72	1.3
調理食品	0	0	0	1	4	1	0	0	0	0	1	0	55	0	0	0	1	6	2	0	71	1.3
他の保健 衛生用品	0	0	0	18	24	2	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	7	2	0	65	1.2
飲料	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	7	0	0	57	1.0
建物一般	5	0	0	43	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	54	1.0
ベビーカー	1	0	0	50	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	53	1.0
他の商品	2	0	1	35	5	1	0	1	0	2	0	0	0	0	3	0	0	2	1	0	53	1.0

表19 入院を要する事故の危害内容別、商品・役務別件数（医療機関ネットワーク）

危害内容	入院件数	商品・役務別件数	商 品 名
骨折	113	18 16 12 9 7 6 3 2 1	階段 家具類 家庭用手動工具 戸建住宅 遊具 自転車、屋外装備品その他 集合住宅その他、四輪自動車、園芸用品、車椅子 他の医療機器、子守用被服品、家庭用電動工具、建物一般 ローラースケート用品、宿泊施設、他の商品、エクステリア、自動二輪車、便器用品、婦人洋服、他の住居雑品類、建具、他のスポーツ用品類、スキー・スノーボード用品、玩具・遊具その他、他の建物、運搬用具その他、他の乗り物類、幼児乗り物・歩行器、他の衛生関連設備、他の浴室関連設備、トイレ設備
擦過傷・挫傷・打撲傷	53	11 9 8 5 3 2 1	自転車 階段 家具類 遊具 床、エクステリア 家庭用手動工具 トイレ設備、ふとん類、建物一般、他の住居雑品類、歯みがき用品、玩具・遊具その他、四輪自動車、他の乗り物類、他の浴室関連設備
熱傷	48	8 7 5 4 3 2 1	飲料 電気ポット類 ガステーブル 鍋類 他の光熱水品、油脂 やかん類 他の浴室関連設備、乳製品、めん類、フライパン、電子レンジ類、電気アイロン、他の住居洗剤、電気あんか、他の衣類用雑品、住居補修材料、ゴミ処理器、炊飯器、電気設備、電気コーヒーメーカー、こんろ類、他の住居雑品類
異物侵入	31	6 4 3 2 1	他の光熱水品 医薬品類 タバコ用品 玩具・遊具その他、コイン、住居補修材料、石油 台所用洗剤、防虫・殺虫用品、事務用紙製品、筆記用具・用品、調理食品、もち、菓子類、酒類、他の医療機器、文房具その他
頭蓋内損傷	27	8 4 3 1	家具類 家庭用手動工具、遊具 階段 トイレ設備、戸建住宅、他の建物、エクステリア、幼児乗り物・歩行器、子守用被服品、自転車、他の衛生関連設備
その他の傷病及び諸症状	19	8 3 1	風呂釜・浴槽 医薬品類 歯みがき用品、遊具、建具、乳製品、他の商品、家具類、風呂用品、調理食品
内臓損傷	15	3 2 1	家庭用手動工具 自動二輪車、自転車、遊具 屋外装備品その他、建物一般、他の商品、食卓用品、階段、四輪自動車
刺傷・切傷・裂傷	14	4 2 1	階段 建築材料 スキー・スノーボード用品、自転車、季節行事用品、建具、エクステリア、自動二輪車、家庭用電動工具、歯みがき用品
神経・脊髄の損傷	13	5 2 1	階段 四輪自動車 他の浴室関連設備、戸建住宅、建具、エクステリア、家庭用手動工具、自転車
切断	8	4 2 1	家庭用電動工具 園芸用品 電気洗濯機、他の商品
中毒	5	4 1	医薬品類 他の商品
びらん・炎症 (眼・皮膚障害等)	5	2 1	パン類 乾燥剤、貝類、乳製品
呼吸器障害	4	2 1	菓子類 もち、風呂釜・浴槽
窒息	4	2 1	菓子類 家具類、遊具
筋・腱の損傷	4	1	階段、園芸用品、建築材料、他の商品
脱臼・捻挫	4	1	階段、家庭用手動工具、エクステリア、家具類
感覚機能の低下(難聴・失明等)	2	1	他の保健衛生用品、新聞
消化器障害	1	1	調理食品
計	370		